

== 関係部署にご回覧下さい ==

LPGC Report

エルピーガス振興センターレポート

第28号 November 2005

☆ トピックス

- ・第15回研究成果発表会 開催報告 1
- ・第18回WLPGA世界LPガスフォーラム上海大会 概要報告 3

☆ プロジェクトニュース

- ・17年度石油ガス流通合理化推進調査
 - ① 流通合理化推進調査委員会 9
 - ② LPガス産業合理化のあり方調査委員会 10

☆ 各部・室からのお知らせ

- ・広報室 活動の紹介 11

☆ 事務局からのお知らせ

- ・新規テーマ募集のご案内 13

☆ 編集後記

トピックス

「第15回研究成果発表会」開催報告

エルピーガス振興センターでは、10月6日東京・港区の発明会館で第15回研究成果発表会を開催しました。当日は180余名の多数のご参加をいただき、盛況の内に終了することができました。

研究成果発表会は、当センターの自主事業の一環(普及啓発事業)として、前年度に実施した技術開発・調査研究事業などについて、皆様に一層のご理解を頂くとともに、その成果を関係者に広く公表するために毎年開催しているものです。

当日は武内理事長より「京都議定書も発効し、環境対応との調和をはかりながらエネルギー供給を行うことが重要となっている。LPガスが果たす役割は大きい。高効率給湯機器の導入は有効な手段の一つであり、導入支援に努めたい」との挨拶がありました。

続いて、来賓として出席された資源エネルギー庁石油流通課 中川企画官は「少子化時代を迎え家庭用エネルギー需要を巡る競争は激化し、また原油はじめ価格高騰の状況下、安定供給源の確保はより重要性をましている。本日の研究成果が大きな力となることを期待する。」とご挨拶されました。

講演ではエネルギー・環境アドバイザーで日本アラブ協会理事である最首公司氏が「エネルギー安全保障と水素時代に向けた取組み」と題して講演し、現在の石油を中心とする世界的なエネルギー安全保障の問題点を探りつつ、先進各国での長期的な対応としての水素エネルギーへの取組みを紹介しました。

1. 危機にある地球

- ・誕生してわずか2分の人類
- ・すでに午後9時台にある地球危機時計

2. 日本エネルギー事情の特殊性

- ・わずか4%の自給率
- ・京都議定書による6%の温暖化ガス削減目標

3. 石油の功罪

- ・20世紀の人口急増を支えた功績
- ・戦争と結び地球温暖化を促した罪悪

4. 石油に依存の問題点

- ・偏在する石油・ガス資源

5. 先進国の脱石油への取組み＝減炭政策

- ・アイスランド、アメリカ、カナダ、デンマーク、ドイツ、中国、日本

6. 水素社会へのロードマップ

- ・インフラ新構築か、既存インフラ活用か
- ・燃料電池の現況と見通し
- ・水素をなにかからつくるか
- ・水素の輸送・貯蔵方法
- ・決め手は輸送機関

7. 水素時代の思想について

最首氏は質疑への応答の中で「水素は貯蔵、輸送などの問題やコストなどの課題を考えると利用は容易ではない。しかし未来に対する必要な投資として税制などを含めた国家としての仕組みづくりが必要であり、それによって水素時代の到来も実現に向けて動き出す。」と指摘されました。

6. 水素社会へのロードマップ

インフラ新構築か既存インフラ活用か
燃料電池の現況と見通し

《2010年アメリカ・エネルギー庁(DOE)三つの目標》
()内は巴拉ード社04年の達成度

①燃料電池価格	\$30/1kw(\$103)
②耐久性	5,000時間(2,200時間)
③耐寒性	-20°Cで30秒始動 (-15°Cで8秒始動、-20°Cで100秒)

実際に走行するのは2015年以降?

当日の研究成果発表のテーマと発表者は以下の通りです。

テーマ・内容および発表者

1. LPガス固体高分子形燃料電池システムの開発 上田 早苗
平成13年度から平成17年度の5年間の予定で、家庭や小規模業務用として用いる1KW級のLPガス固体高分子型燃料電池システムの開発に取り組んでいる。
 - ①水蒸気改質方式の燃料電池システムの開発
 - ②触媒燃焼併発型水蒸気改質触媒及び水素供給システムの開発
 - ③薄膜型メンブレンリアクターの開発

2. DME燃料実用化基盤実証試験研究 広端 栄
平成14年度から16年度の3年間で、DMEの利用・普及にあたってLPガスインフラを活用するため、現状のLPガス設備に対するDMEの影響を調査し、実際のLPガス設備を使用しての貯蔵・輸送・供給に係るフィールドテストを実施し、設備、機器等のLPガスインフラの転用の可能性を検証した。その結果、シール材等でDME用に改造を必要とする箇所はあるものの、既存のLPガス仕様のインフラでもDME用として充分使えるとの技術的確認を得た。

3. バルク供給システム調査 斉藤 典明
平成16年度は、LPガス販売事業者の流通合理促進に寄与するため、バルク供給の共同配送と充てん所の共同利用のシステムを構築することを目的として平成15年度に作成されたバルク供給共通フォーマット仕様による、振り分けシステムツールソフトの作成と実証試験による精査を実施した。

4. 石油ガス開発等供給多様化調査
LPガス輸入ソースの多角化を図り、LPガスの安定供給に資するための調査(開発計画可能性調査、政策動向調査、国際需給・市場調査)を実施するとともに世界各地で開催されたセミナー等に出席した。
 - ①欧州環境動向調査(欧州におけるLPガス低硫黄化問題への対応現状) 谷尾 恭一
 - ②中国調査(上海及び珠江デルタ地区のLPガス需給現状) 西浦 佳樹
 - ③インドネシア調査(石油・天然ガスプロジェクトでのLPガス開発、
生産現状と将来動向) 川村 勉
 - ④LPガス国際市場動向 谷尾 恭一



「第18回(2005年)WLPGA世界LPガスフォーラム上海大会」概要報告

第18回世界LPガスフォーラムは、2005年9月13日～16日に上海で開催されました。

以下の通り概要を報告します。

1. テーマ: 『LPガス - グローバルな最新のエネルギー』(アジアのLPG市場をフォーカス)
2. 日時: 2005年9月13日～9月16日
9月13日: GAIN(Global Autogas Industry Network)会議
GLOTEC(Global Technology Network)会議
国際技術会議(WLPGA2006年シカゴフォーラムと共催)に向けた準備委員会。
9月14日: Industry Council Meeting(評議委員会: WLPGAの常務会相当組織)
Board of Directors Meeting(理事会: WLPGAの取締役会相当組織)
General Assembly(総会)
9月15～16日: Forum(基調講演、テーマ別講演等)
3. 開催場所: Pudong Shangri-La Hotel, Shanghai, China(中国、上海)
4. 主催者: 世界LPガス協会(WLPGA)
9, rue Anatole de la Forge, 75017 Paris, France(Web Site: www.worldlpgas.com)

I. WLPGA総会・評議委員会・専門部会等の概要

1. 理事会、総会:

WLPGA規約の一部改定→承認他

(1)WLPGA 理事数削減: 14名→9名 日本役員は改めて選出された。

WLPGA 理事の責務明確化: 理事会には Min50%出席が前提となった。

(2)WLPGA 会費の改定: 企業会員費 2種別化(4000、6000 ユーロ)

各国協会クラス	: 4,000 ユーロ→3,000 ユーロ(↓値下げ)
取扱量70万t超法人	: 4,000 ユーロ→6,000 ユーロ(↑値上げ)
多国籍企業	: 4,000 ユーロ→10,000 ユーロ(↑値上げ)
(但し、5人まで代表を出せる権利を付加)	
評議委員	: 16,000 ユーロ(変更無し)

(3)理事会: 運営上の問題を評議会に移管。

(4)評議会は戦略決定、運営上の問題・履行監督に関する正式な責任を負うものとなる。

(5)第19回(2006年10月)総会・フォーラムは、国際技術会議と共催

(主催: WLPGA、PERC[米国プロパン普及研究協会])

: 2006年10月17～20日 Chicago, Palmer House Hilton Hotel

(6)その他:

第17回総会(昨年10月ベルリン)議事録の承認、会長報告、監査報告、事務局長報告等

2. GAIN(Global Autogas Industry Network) Council Meeting・・・オートガス専門部会

(出所: 日協 山口調査役報告書)

- ・出席者(事務局含め30名)の自己紹介、議事次第承認、前回GAIN(本年5月・リスボン開催)議事録承認に続き、事務局より2005年度活動状況の報告。
- ・Adept社プレゼンテーション「Maximus Stop-Fill System (for LPG Bus Tanks)」・・・充填時のガス漏れを減らす為に開発中。次はタンク車、家庭用タンク研究予定。
- ・出席各国の最近のオートガス・LPG車動向について発表・・・日本の状況として、2030年に向けた長期需給見通しにおけるLPガスの位置づけ、LPG車26万台達成に向けた業界の取組み開始、新長期自動車排ガス規制の施行や更なる強化に伴いメーカーは次世代型(電子制御燃料噴射方式)LPG車の精密制御を開発中であること等、発表した。

3. GLOTEC (Global Technology Network) Council Meeting・・・技術専門部会

(出所: 日協 山口調査役報告書)

- ・出席者(事務局含め30名)の自己紹介、議事次第承認、前回GLOTEC(本年5月・リスボン開催)議事録承認後、GLOTECの現在のアクションプラン・プロジェクトの活動状況報告、来年10月開催予定の The

Global Technology Conference (*国際技術会議)についての現況、その他 ADEPT 社より「残渣除去プラント・プロジェクトの進捗状況」に関するプレゼンテーションがあった。

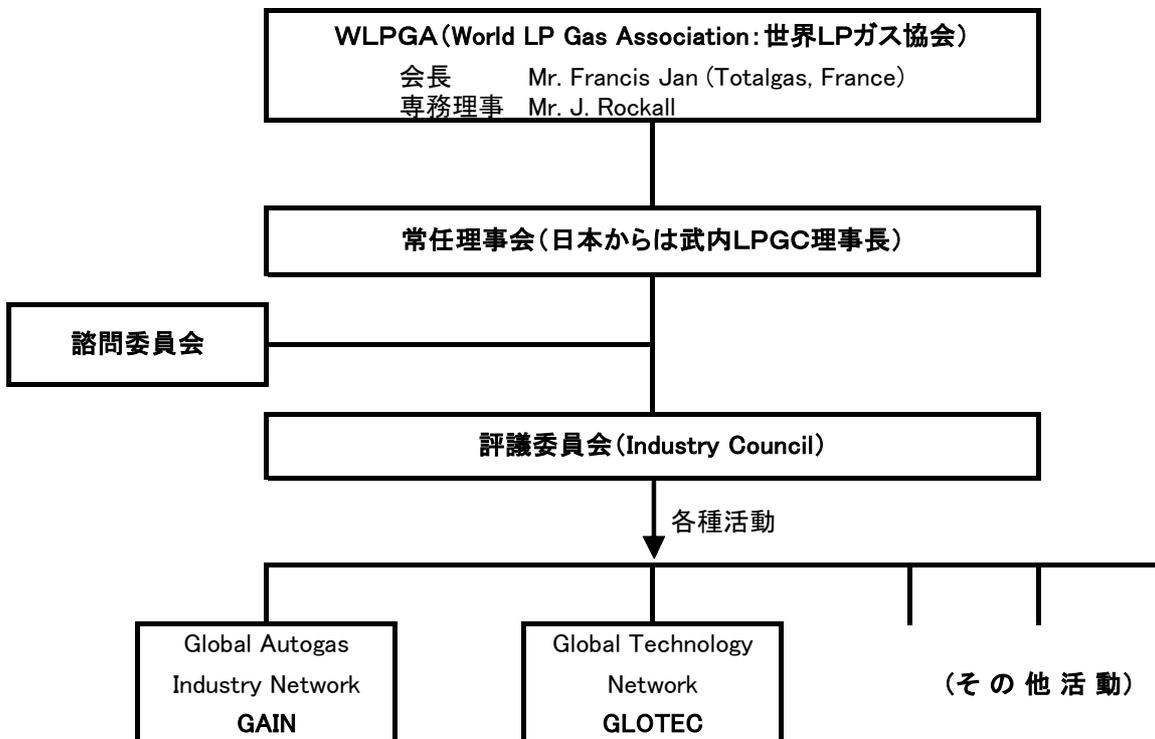
- ・アクションプラン・プロジェクトの燃料電池に関連し、日本のLPG仕様燃料電池の現況について聞かれ、新日石の事例を紹介(本年3月家庭用1Kw型LPG・FC商業化開始、熱効率、今後の販売計画等、プレス発表内容程度)。

4. 第32回 Industry Council Meeting・・・評議委員会 (出所:日協 山口調査役報告書)

- ・出席者(事務局含み21名)自己紹介の後、議事次第ならびに前回評議委員会議事録を承認。
- ・評議委員メンバーを拡大する方向が打ち出され、新規メンバーとして日本から出光・三菱社、韓国E1、SKガス、サウジアラムコ、エクソンモービル、ペトロブラス、豪州ウエスファーマーが候補にあげられ、中国についてはSinopec等を入れる方向で、引き続き検討することとした。
- ・WLPGAの2005年度アクションプランについて、プロジェクトの進捗状況と意見交換が行われた。
 - －国際活動・ロビー活動・・・4大陸・11ヶ国・14の国際会議に出席・プレゼン
 - －新規市場開拓・・・モロッコ・南ア・中国・インドの4プロジェクトで進展有り
 - －技術協力計画・・・GLOTEC のプロジェクト進捗状況報告
 - －オートガス市場発展計画・・・GAIN のプロジェクト進捗状況報告
 - －広報活動・・・WLPGA の活動について会員、プレス、協会への周知・広報
- ・ゲスト・プレゼンテーション「アルゼンチンLPG業界に影響を与える最近の立法について」・・・「LPガス法」が制定、ラテンアメリカのモデルとなり、また消費者の権利を守っていきたい。(アルゼンチン・エネルギー省次官 Mr. C. Folgar)

(参考)

WLPGA(World LP Gas Association: 世界LPガス協会)の組織図



II. フォーラムにおけるプレゼンテーションの概要

52カ国550名が参加登録し、史上最大の参加規模とのこと。(過去平均400名程度)。
国別数では中国101名、米国51名、インド48名、日本29名、フランス23名。
講演は、基調講演2、セッションスピーチ[プレゼンテーション]17、円卓討議1。

(全体の概要)

今年のテーマの一つである「スポットLPG価格が\$500をマークしたが、今後も価格は上昇を続けるのかどうか？」であった。大半の意見は、今後とも冬場の堅調な需要をベースに、引き続き高値圏を維持するとの予測であった。

フォーラムは以下のプログラムで進行しました。

・9月15日(木)

- 08:45 - 09:30 開会の辞: WLPGA会長フランシス・ジャン(Francis Jan)氏
上海ガス・グループ総経理ゲ・ウェイシャン(Ge Wei Chang)氏
上海市副知事ヤン・ザオン氏
- 09:30 - 10:15 基調講演 中国ガス協会会長 遲 国敬(Mr. Chi Guojing) ①
上海市土木工事監督局次長(Mr. Wang Yizhong) ②



講演中の遅国敬氏

10:45 - 12:45 セッションI LP ガスの世界情勢

(議長: Mr. Lon Greenberg / 米 UGI Corp.)

- ・ 世界の LP ガス需給 (Mr. Ken Otto, Purvin & Gertz, U.S.A.) ③
- ・ LP ガス価格のリスク管理 (Mr. Peter Caddy, Argus UK) ④
- ・ LP ガス船舶の現況 (Mr. Rolf Straete/ Fearngas Oslo) ⑤
- ・ LP ガス構造基盤への投資と財務見通し (Mr. Michael Hoare/ MCH Oil & Gas Consultancy) ⑥

14:15 - 16:00 セッションII アジアにおける LP ガスの見込み

(議長: Mr. Kimball Chen/ Energy Transportation Group Inc., U.S.A.)

- ・ 中国における LP ガス市場開発の見通し(Mr. Shi Zhanming/ Shanghai Gas Group Co.) ⑦
- ・ 地方における LP ガスの課題と過去2年間の経験・教訓 (Mr. Paul Harris/ IES Pty) & (Mr. Ben Muirheid/ WLPGA) ⑧
- ・ アジアの LP ガス貯蔵の必要性の増大 (Ms. Shen Ping,/ C1 Energy) ⑨
- ・ 石炭からの DME 生産 (Prof. Weidou Ni / Tsinghua University) ⑩

16:30 - 18:00 パネルディスカッション - 共通の低硫黄着臭剤の普及の必要性

(議長 Mr. Roy Willis/ 米国 PERC プロパン普及研究協会)

- 参加者: Mr. Patrick Segara(欧州 LPG 協会) ⑪
Mr. Matthieu Jouve(Arkema, France),
Mr. Larry Osgood(米 PERC), Mr. Kevin Sansome(豪 Elgas),

Mr. Mitsuo Namba(KHK: 高圧ガス保安協会)
 オートガス市場における排気管の触媒の更なる保護に向けての圧力が高まり、
 また他燃料との競合が強まる状況において、公開討論では低硫黄着臭剤の
 必要性和全世界のLPガス市場での必要性の程度についての議論。

19:30 - 23:00 歓迎晩餐 (Gala Dinner)

・9月16日(金)

08:45 - 09:30 **基調講演** **エネルギーと経済成長の関連について**

(Mr. Ian Knight / Group Head, Private Equity, KPMG) ⑫
 - (Private Equity(非公開投資会社)のLPGについての見通し)

09:30 - 11:00 **セッションIII** **成熟市場における革新技術**

(議長: Dr. Frank Mastiaux /BP UK)

- ・ シリンダーの誘導電磁波(IC タグ)による管理効果(Mr.Conrado Ruiz / Athelia) ⑬
- ・ 日本におけるLPガス消費者の為の保安技術の開発
 (Mr.Mitsuo Namba: 高圧ガス保安協会、難波所長) ⑭



講演中の難波氏

- ・ 成熟市場の神話と成長への変革 (Mr. Howard Kerr / Calorgas, UK) ⑮

11:30 - 13:00 **セッションIV** - **オートガス:世界的に成長著しい分野**

(議長: Mr. Gary Ireson/ Wesfarmers Kleenheat Gas, Australia)

- ・ 自動車排気ガスの社会と健康への影響
 (Mr. Peter Anyon/ Air Quality Technologies Pty Ltd) ⑯
- ・ 中国の自動車化の課題 (Mr. Lee Schipper /World Resources Institute) ⑰
- ・ 効果的な陳情—韓国から学ぶもの(Mr. Jin-Sung Jung/ Chairman ,Korean LPGA) ⑱

14:30 - 16:00 **セッションV** - **優れた慣行は優れた事業感覚を生む**

(議長: Mr. Christian Hunault / SHV , The Netherlands)

- ・ 消費者向け保安業務の効率的な啓蒙 (Mr. Roy Willis/米国 PERC) ⑲
- ・ 新型式のLPガスシリンダーバルブの開発
 (Dr. Young-Gyu Kim/ Korea Gas safety Corp.) ⑳
- ・ 既存燃料に対する保安と環境面でのLPガスの優位性
 (Prof. Kirk R. Smith / Univ. Of California, USA) ㉑

16:00 - 16:30 **閉会の挨拶**

WLPGA会長フランシス・ジャン氏(Mr. Francis Jan)
 米国 PERC(プロパン普及研究協会)会長ロイ・ウイリス氏
 (Mr. Roy Willis)(2006年開催は米国のシカゴの予定)

III.プレゼンテーションのハイライト(特記事項)

<プレゼンテーションのハイライトは、5~6 ページの右側の番号に合わせています。>

尚、主要なプレゼンの詳細な内容については弊センター発行のイエローペーパー『LPガス海外情報』9月号をご参照願います。

- ①中国のLPガス市場開発: 今後内陸へ展開する。(都市部は都市ガスに転換が進む)、公害問題からオートガスに大きな潜在成長力がある。2001年のオートガスまたはCNG燃料車は11万台に増加し、その3/4がオートガスであった。更に2005年には20万台、2010年には30万台に増える見込み。オートガスは初期投資が小さくその簡便性から、LNG配管網のない遠隔地や農村地帯で普及してゆく。しかしマクロな視点からすると、LPGは2006年に中国南部の広東州でLNG計画が開始すると、LNGとの激しい競争に直面することとなる。
- ②上海のガス事情: 2003年から天然ガス導入し、急増している。2005年6月現在ガス供給662万戸の内、天然ガス163万戸、人造ガス【石炭ガス】247万戸、LPG252万戸である。2010年までに天然ガス展開、ネットワーク化(163→360万戸、一次エネ比率2→10%)。LPG需要家は252万→225万に漸減(市街から農村へ、ボトルから配管)。一方石炭消費は、天然ガスによって大きく影響を受け165万戸へ減少するものと予測。
- ③パービン&ガーツ社オットー氏: 中東産油能力が現状維持なら、2006年も原油は高価格が続こう。原油→LPG→天然ガスの順で、価格上昇転移。その他イラクの政治的な緊張、ハリケーンの影響による天然ガスの高騰、スエズ以東の需給バランスの変化が、LPG市場に影響を与える要因となろう。アジアは今後5年間、世界の市場の牽引車となろうし、需要は主として家庭・業務用で年間8,000万トンを超えることになる。また石化原料向け需要も特に中東で増大する見込みである。
- ④アーガス社: Argus Far East Index (FEI) 活用の効用。FEI = (50% CFR Japan) + (50% CFR South China) 過去はサウジCPがアジアのLPG価格を支配してきたが、今日、今後はアジアの価格システムがサウジCPを決めることになる。アジアは中東玉にとって常に最も高い市場ではなく、中東の供給量はアジアの需要以上の増加を予測する。求められるリスク管理としては、地域間のアービトラージへの迅速な対応、原油価格の乱高下対応、FEIが主要なCPのインディケーターとなる。スワップ市場でFEIは機能し、流動性は増す(透明性、取引相手の選択等)。
- ⑤過去数年間のハイペースな新造船ラッシュで、2010年までに世界の船隊は若返るだろうと予測。海運市場の特徴は2層化(新しい船隊と古い船隊に分化)現象が起きている。現在VLGCの105隻のVLGC数が2010年9月には、約127隻に船隊が増加し、スポット船隊の増加が市場の乱高下を防止する機能を果たすものと思われる。
- ⑥中国では、今後長年に亘って家庭・業務用が最大の市場であり続けるだろう。しかし多くの国が「成熟から衰退のサイクル」に入っているため、更なる成長促進には、【政府の財政的、政治的安定性と商売上の規制】【インフラ(基地と流通施設等)への大型投資】【他の燃料比の競争力、消費者への独自性のある利点】【十分に吟味した上での市場参入戦略、買収、合併、あるいは新規事業】が必要である。
- ⑦LPGの将来成長に楽観的見通しを持っており、例えば天然ガスの支配力が増すとしても、将来的にはLPGは必要不可欠であり続ける。都市部は配管ガスが主力であり、田舎や郊外では配管のない中小都市と同様LPGの方が経済的である。中国のLPG消費の伸びは世界平均より遙かに大きく、オートガス業界、金属加工、空調用等でLPG使用を含む多くの可能性がある。
- ⑧LPGの農村地域での普及の成功要因とは何か、アジアでのルーラル(農村・未開発地域等)市場は、手付かず状態で、20億世帯・6千万トンの市場規模が存在する。このうち50%が東南アジアにある。
- ⑨今後の予測と機会: 中国とインドにおいては、日本・韓国に比較して貯蔵タンク容量比の輸入量(トン)は2倍となっている。2010年までには中国と日本・韓国間のギャップは更に拡大する見通しである。中国に於ける新たなLPG基地と貯蔵タンク建設には大きな潜在力がある。インドに於いても新たな基地とタンク建設の余地がある。

- ⑩DME は LPG と同様な、クリーン燃料である。DME はディーゼルの代替となり、将来的には LPG の代替品と成り得よう。DME は石炭から製造が可能であり、中国は石炭資源に恵まれている。中国の DME プラント計画は現在5基あるが DME 市場浸透性が弱いため、最終決定に至っていない。更なる政府の支援と投資が必要。
- ⑪高レベルの円卓討議： 低硫黄系着臭剤の必要性に関する討議：
Arkema 社： 現行のエチルメルカプタンの5倍の効果、低揮発性、高安定性の新添加剤の開発に成功。
日本 KHK： 日本での新着臭剤開発の開始について紹介。
- ⑫KPMG:非公開投資会社(プライベート・エクイティー・ファンド)が主要な事業買収者となっており、事業に継続的に携わる。PE はエネルギー及び天然ガス資源取引に活発に関心を持っている。PE ファンド規模は大規模化し、そのためより大規模事業への投資求めている。
- ⑬ICタグによるシリンダーの管理に効果がある。スペイン企業は国際的事業展開を進めているが、IC タグは流通途中のシリンダー数の滅失防止に効果がある。
- ⑭日本 KHK[難波所長]:日本のLPガス消費者に対する保安技術の開発経緯と現状を説明。近年事故が増加したため、マイコンメータの機能見直しに着手し、従来の膜メータに代り、流量の検出原理を超音波式に変えたものを開発しているところ。その結果、小型化(1/5)、軽量化(1/2)され、性能面でも大幅に向上の見通し。その他 DME と LP ガスの実験による物性比較の研究の実施について説明。
- ⑮成長市場での神話と成長に向けた変革:「成熟市場」というモノは存在しない。もし LPG が需要主導型であれば、LPG 市場は持続し成長が可能である。市場と LPG の開発投資は重要である。LPG 業界以外の事業相手は成功の鍵を握る。販売面同様、供給・流通面及び顧客サービスの革新が求められる。自己の想像力の限界によって縛られているのが実態である。
- ⑯自動車の排ガス公害は重大である割には、軽視されがちである。クリーン燃料推進を後押しする政策・戦略によって人体に有害な汚染物質の量を大きく低減できる。ディーゼル・ガソリン代替での LPG (オートガス)への転換は、最も実効的な戦略であり、健康面に多大なメリットをもたらすものである。
- ⑰排ガスと環境問題: 中国の自動車化による排ガス問題が深刻化。(北京、重慶、上海、大連、天津等の現状紹介とメキシコシティとの比較がなされた。)→既存燃料比較で、保安・環境面等での LP ガスの優位性がアピールされた。
- ⑱韓国のオートガス促進の為にロビー活動: 韓国が他燃料比較オートガス税を低く抑える為の政府陳情活動に成功した背景には、豪州 LP ガス協会の指導があった。
- ⑲PERC は消費者向け保安業務の啓蒙書の刷新によりプロパン需要家の安全を確保しプロパン関連の事故の減少を図っている。総合的・効率的な「注意義務」書の完備によりプロパン販売業者・産業にとっての法的責任を低減する努力を実行している。
- ⑳自動遮断式のレギュレーターがはずれたときに自動的にシリンダーバルブを閉じるためにガス注入口の内側に新型の自動遮断装置を開発し、設置した。これはバルブ開放時の異常な LP ガスの漏洩によるガス事故の防止に寄与するものである。
- ㉑貧困層におけるLPガスコンロとシリンダーへの資金的な手当の手段がない彼らを LPG 市場から遠ざけている。そのため彼らは薪等のバイオマスに頼らざるを得ない状況にある。LPG 施設へのアクセスは不十分で LPG 流通網は完備していないインド等に於ける政府の補助金の抱える問題点が多々ある(政府負担が大きすぎ、補助金を必要としない中・上流階級が主として LPG を使用している実態、灯油同様、本来の目的の家庭用以外への違法な悪用が横行している現状がある)。

プロジェクトニュース

17年度石油ガス流通合理化推進調査

①流通合理化推進調査委員会

平成17年8月1日に虎ノ門パストラルで第1回石油ガス流通合理化推進調査委員会を開催し、平成16年度にLPガス構造改善支援事業で採択された、28項目の調査結果について、調査結果の概要を発表しました。

<第1回委員会の開催>

平成16年度LPガス販売事業者構造改善調査結果概要報告

消費者ニーズ調査結果概要

- ・LPガス消費者に対するお客様満足度調査 (社)青森県エルピーガス協会
- ・主たる生活エネルギー転換に関するお客様アンケート (社)秋田県エルピーガス協会
- ・消費者ニーズ・マーケティング調査及び販売事業者意識調査 (社)大分県エルピーガス協会
- ・販売店のコスト削減、事業拡大に役立つ消費者ニーズを把握する調査 (社)神奈川県エルピーガス保安センター
- ・電力・都市ガスの自由化拡大に伴うLPガス業務用の実態調査 (日本LPガス協会)

業務改善調査結果概要

- ・LPガス集中監視システムの持つ特徴を満たす無線通信インフラ、無線技術の調査 (特定非営利活動法人LPガスIT推進協議会)
- ・競争エネルギー対策 (社)熊本県エルピーガス協会
- ・マイクロコージェネの使用実態及び認知度等調査 (社)全国エルピーガス卸売協会
- ・バルク供給配送・充電業務実態調査 (社)全国エルピーガス卸売協会九州地方本部
- ・高山市並びにその周辺地域のISDN・ADSL拡大による通信不能解消及びNCU設置促進に向けて、無線NCU親機販売店共同運営の事業化継続調査 (高山エルピージー販売株)
- ・LPガス販売事業者の財務基盤強化実現のための経営実態調査 (ティ・アンド・ディ太陽大同リース(株))

流通合理化調査結果概要

- ・バルクローリー車両に搭載する「車載コンピュータ」との連携による、配送業務効率化の実現に向けた事態調査・分析 (岡谷酸素株)
- ・シリンダー供給からバルク供給へのモーダルシフトによるコスト低減の可能性調査 (株)サイサン

ICタグ調査結果概要

- ・非接触ICタグを活用した保安業務の合理化および、ICタグからの取得データを活用した消費設備の販促とメンテナンス事業ビジネスモデルの策定・調査 (エア・ウォーター・エネルギー株)
- ・LPガス業界における「電子タグ」実用化可能性調査 (社)全国エルピーガス卸売協会

付加価値サービス調査結果概要

- ・IPネットワークの普及拡大に伴うIP化をキーとしたLPガス販売事業者の構造改善へ向けた可能性と合理化効果の検討 (株)ザ・トーカイ
- ・「高齢者安否見守りサービス」の事業化に向けた調査 (八戸液化ガス株)

需要拡大調査結果概要

- ・空調設備(床暖房・ヒートポンプ等)における、ガス機器と電気機器による、室内温度変化の実測に基づくエネルギー効率の評価検討 (リンナイ株)
- ・食品リサイクル問題を解決し、LPガス消費量を拡大する高付加価値型食品残渣処理システムの開発調査 (キョエイ株)

料金体系調査結果概要

- ・家庭用LPガスの「新料金体系」構築のためのガス使用実態調査と分析 (株)カナジュー・コーポレーション

災害対策調査結果概要

- ・災害時における基本行動指針(マニュアル)の作成のための調査 (社)全国エルピーガス卸売協会

リフォーム調査結果概要

- ・リフォーム事業を推進するための設計事務所との連携可能性調査 (三菱液化ガス株)
- ・ハウスメーカーストック住宅の建築経過年数と設備リフォームに関する調査 (三菱液化ガス株)

LPガス車調査結果概要

- ・LPガス自動車での海外規格容器・付属品での安全性実証調査 (伊藤忠エネクス株)
- ・ブタンガス有効活用のための路線バス等におけるディーゼル代替LPGバスの実用化可能性調査 (コープ低公害車開発株)

保安調査結果概要

- ・保安機関、販売事業者等経営実態調査 (社)福岡県エルピーガス協会

その他調査結果概要

- ・生活提案型企業シミュレーション(これからのエネルギー産業の中での生き残り企業像の模索) (社)千葉県エルピーガス協会
- ・LPガスを中心とする熱源に関する住宅関連事業者の実態・意向及びPR・プロモーションの方向性意識調査 (福岡液化石油ガス事業協同組合)

<今後の委員会予定>

第2回の委員会以降は、採択された内、7事業者によるプレゼンテーションを実施し、委員会でLPガス産業の業界としてどう、取り組むべきかについて検討を実施する予定となっています。

第2回委員会(11月10日)開催

- ①シリンダー供給からバルク供給へのモーダルシフトによるコスト低減の実態可能性調査 (株)サイサン
- ②エネルギー競争下における業務用LPガス消費実態調査 (日本LPガス協会)
- ③「LPガスを中心とする熱源に関する住宅関連事業者の実態・意識及びPR・プロモーションの方向性意識調査」 (福岡液化石油ガス事業共同組合)

第3回委員会(12月15日)開催予定

- ①マイクロガスコージェネの使用実態及び認知度等調査 (社)全国エルピーガス卸売協会
- ②LPガス販売事業者の財務基盤強化実現のための経営実態調査 (ティ・アンド・ティ太陽大同リース株)

第4回委員会(日程未定)

- ①家庭用LPガスの「新料金体系」構築のためのガス使用実態調査と分析 (株)カナジュウ・コーポレーション
- ②空調設備におけるガス機器と電気機器による、室内温度変化の実測に基づくエネルギー効果の評価検討 (リンナイ株)

②LPガス産業合理化のあり方調査委員会

本調査委員会は、競争が激化する他産業界において、消費者から認められる企業として企業努力を積極的に行い発展している事業の先進事例を調査し、LPガス業界で活用できる事例があるか検討し、LPガス業界に紹介することによりLPガス産業の活性化に寄与することを目的としています。

第1回委員会(9月29日)開催

- ・プレゼンテーション「コンビニエンスの軌道から現在」(株)FRI代表取締役 池田克彦 氏

第2回委員会(11月17日)開催予定

- ・「コンビニエンスの軌道から現在」のプレゼンテーションを受けて、LPガス産業合理化に活用できる事例についてのとりまとめ。

第3回委員会(12月14日)開催予定

- ・プレゼンテーション「宅急便事業について」 神奈川大学経済学部教授 中田信哉 氏

第4回委員会(日程未定)

- ・「宅急便事業について」のプレゼンテーションを受けて、LPガス産業合理化に活用できる事例についてのとりまとめ。

各部・室からのお知らせ

◆広報室

17年度液化石油ガス中央懇談会 開催報告及び、地方懇談会日程について

液化石油ガス懇談会は、「LPガスの流通及び取引の適正化に関する諸問題について、消費者、販売業者、学識経験者、行政関係者が一同に会し、LPガス産業の現状と課題等についての情報提供を行うと共に、関係者間でLPガスを巡る意見交換を行い、もってLPガス産業の健全な発展に資する。」ことを目的に毎年開催しています。



17年度液化石油ガス中央懇談会は、下記の通り開催しましたので、その概要を下記します。

1. 日時 平成17年9月9日(金) 13時30分～16時

2. 場所 虎ノ門パストラル

3. 出席者

・消費者委員

(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
コーペル

(社)全国消費生活相談員協会
全国生活学校連絡協議会

・事業者委員

日本LPガス協会
(社)全国エルピーガス卸売協会
(社)日本エルピーガス連合会

〃

・学識経験者委員

国立大学法人横浜国立大学大学院
国際社会科学研究所
四五六法律事務所

(財)日本エネルギー経済研究所 石油情報センター

・行政委員他

経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部 石油流通課
〃

経済産業省 原子力安全・保安院 液化石油ガス保安課
(財)エルピーガス振興センター

監事 三村 光代
会長 宮沢 方子
消費生活専門相談員 大内 美喜子
会長 坂本 幸子

副会長 神野 康夫
副会長 横内 稔
常任理事 菊池 鴻逸
専務理事 遠藤 正利

教授 鳥居 昭夫
弁護士 竹越 健二
所長 岡本 秀樹

企画官 中川 純一
課長補佐 服部 桂治
課長補佐 小島 暢夫
専務理事 中村 紘一

4. 消費者委員からの質問、意見 他

(1) 供給(原油需給、価格関連)

・原油高騰に伴い、ガソリン、灯油等石油製品も高騰しているが、原油価格及び、LPガス価格の今後の見通しを教えてほしい。

(2) LPガス小売価格関連

・消費者から「現在購入しているLPガス料金は高いのではないか」との質問がある。

特に、基本料金、従量料金の内容が不透明との見方があるが業界としての意見をお聞きしたい。

(3) 売買契約関係

- ・LPガス訪問販売による契約時、解約時のトラブル相談が相変わらず消費生活相談員へ持ち込まれているが、販売事業者におかれては、常日頃消費者と価格や取引内容の確認などの連絡を密にし、契約内容を明確化し、トラブルが生じないような対応をお願いしたい。

(4) 保安関係

- ・各家庭にボンベを配送している販売店の配送員や、保安点検している係員などは、資格は必要なのか。また各担当に対して、安全教育は万全に行われているのか。
- ・マイコンメーターの使用期限(寿命)はどのような基準で決められているのか教えてほしい。

(5) 災害対策

- ・非常時に食料、毛布等が備えてあるように、LPガスボンベも非常用として各地の拠点に備え付けられているのか。
- ・風水害、地震などの災害時に、避難所でどんなエネルギーを使用したかという調査がされていれば教えてほしい。

(6) その他

- ・電気、CNG、LPガスをはじめ、より低公害な自動車への転換がすすんでいるなかで、「LPG車」の導入の進捗状況と、LPG車のメリット、デメリットを含め今後の業界の対応について教えてほしい。
- ・オール電化住宅で、高齢者がIHヒーターで煮炊きをしていて、やけどしたとか、IHヒーターの上にカセットコンロを置いて炊事しているという現実があるが、行政、業界では、消費者が、オール電化住宅でLPガスを使用するケースを想定した対応策について、何かお考えがあればお聞かせ頂きたい。

これらに対して事業者委員や行政からは、

- ・LPガスは原油価格にスライドして変動するので高止まりも予想されるが、より合理化を進めコスト削減努力をしていきたい。
- ・基本料金と従量料金の開示が徹底されていないのは業界として反省すべき点だ。今後とも一層の周知徹底を図りたい。
- ・災害時の供給等については自治体との防災協定の締結などを鋭意すすめ、迅速な対応ができる体制を整えていきたい。また、国として都市ガスの主要地域に、災害時対応として常時LPガスを使用する公共機関(例えば給食センター)を設置すべく計画中である。

といった回答があり、活発な意見交換がされ、内容の充実した懇談会となりました。

また、液化石油ガス地方懇談会については、10月14日の四国経済産業局を皮切りに、全国9つの経済産業局別に都道府県のLPガス開催団体等の代表の方々の出席により、下記日程で開催することとしています。

液化石油ガス地方懇談会日程

(開催順)	開催日	開催都市	開催場所
①四国地方液化石油ガス懇談会	10月14日(金)開催済	高松市	四国経産局会議室
②中国地方液化石油ガス懇談会	11月7日(月)開催済	広島市	広島合同庁舎2号館会議室
③近畿地方液化石油ガス懇談会	11月8日(火)開催済	大阪市	阪急ターミナルスクエア
④東北地方液化石油ガス懇談会	11月9日(水)開催済	仙台市	ホテル白萩
⑤中部地方液化石油ガス懇談会	11月11日(金)開催済	名古屋市	クレール
⑥北海道地方液化石油ガス懇談会	11月21日(月)	函館市	函館国際ホテル
⑦沖縄地方液化石油ガス懇談会	11月24日(木)	那覇市	沖縄総合事務局会議室
⑧九州地方液化石油ガス懇談会	11月25日(金)	福岡市	福岡県中小企業振興センター
⑨関東地方液化石油ガス懇談会	11月29日(火)	東京都	東京国際フォーラム

事務局からのお知らせ

平成19年度新規事業テーマ募集について（ご案内）

弊センターでは、LPガス関係業界の要望に沿うべく、従来より事業テーマを募集してご意見を寄せていただき、その内容をとりまとめた業界の要望テーマとして当局へ提出し、予算化と事業化に努めております。

今回は特に「平成19年度新規事業テーマ」の募集を行っておりますので、奮ってご応募をお願いいたします。

厳しい国の財政事情の中でのテーマの選定となるため、募集テーマには下記のような厳しい条件や制約が付され、厳選が求められています。センターとしてもテーマを応募頂いた時点で、こうした制約・条件への適合を様々な面から検討して、応募頂く方の考えや意見を反映させ、事業化につなげたいと考えています。ぜひ積極的なご応募をお願い致します。

平成19年度事業テーマ提案書に記載の上、平成18年2月28日(火)までに、ご応募下さいますようお願い申し上げます。(テーマ提案書ならびに詳細は、当センターホームページに掲載しておりますのでご参照下さい)

また、公益法人改革の中で国の補助金依存度の引下げなど、弊センターの運営方法の改善も急務と なっています。したがって、企業・団体からの委託も自主事業として拡大して参りたく、これらに対するご提案も併せてお願い申し上げます。

記

1. LPガスの安定供給、流通合理化又は高効率化による省エネルギーに関すること。
2. 国の関与する事業であることの必然性、妥当性があること。
3. 受益者は、業界のみでなく不特定多数であること。
4. 具体的に何をどうしようとするのか。図表、絵を駆使して明快にするとともに、実施によってもたらされる効果は何かを記述して下さい。
5. 技術開発の場合は、内外の既存技術との相違点、既存技術のどのような問題点をどう解決しようとするのかを記述して下さい。また、課題解決のための具体的研究開発手法、技術シーズは何かを記述して下さい。
6. 実用化を想定していることが前提です。
7. 技術開発テーマの場合、補助事業となることもあります。その場合には、民間企業等で差額を負担していただくこととなります。



編集後記

先日の振興センターの第15回研究成果発表会には、大勢の皆様にご参加を頂き誠にありがとうございました。

特別講演の最首先生のお話によれば、地球の誕生は46億年前であるが、地球が誕生してから今日までを一年とする地球時計で計算するとすれば、人類が誕生してからの時間はまだ2分に過ぎないが、地球の危機的状況はすぐ目の前で、危機的状況にしているのは人類の活動によるとのことでした。

その危機的状況にしている最たるものが人類のエネルギー利用であり、文明の進化による人口の爆発と一人当たりエネルギー消費量の激増で、石油への功罪があるとの指摘には考えさせられました。

そして、地球に優しいクリーンな分散型の災害に強いLPガスに携わっていることを誇りに思い、効率的な利用に心掛けねばとあらためて思ったところでした。

9月6日に上海で開催されたWLPGAフォーラムも、地球環境問題についての話が多く、二酸化炭素の排出が少ないLPガスを世界中で使用するようにしなければならないとし、LPガス自動車はもっとも普及させなければならないとのプレゼンテーションが多くありました。

日本でもお馴染みのパービン&ガーツ社のケン・オットー氏の基調講演では、世界の需給は中国、インドの需要はますます増加するが、日本はLPガス産業が成熟期に入っており、これ以上増えることはない、暫時減少するとの見方で、他のプレゼンターも意見が一致していました。

日本は地球環境対策に余程頑張らないと、政府のエネルギー需給見通しの2030年LPガス需給量2,500万トンとはならないと言うことでしょうか。

今後のLPガス価格について、ケン・オットー氏は今年はこれから冬にかけてはそれなりに上昇することも止む得ないが、来年の春には元に戻るとのお話をされましたが、最近の国際エネルギー価格の高騰はすさまじいものがあり、アメリカにハリケーンが来襲して石油製品が品薄になり、そこを投機筋が介入し、アメリカ市場での原油は70ドルまで上昇し、それに連動してLPガス価格は、サウジCP価格(プロパン)10月が史上最高値の505ドル、更に11月も史上最高値の535ドルと2ヶ月連続の高値更新の青天井状態で、12月はどうなるかと不安にかきたれられるところだ。

そして、原油対比では10月は106%であったのが、11月は対原油比が119%と大幅に上昇し、一体どのようにCP価格が設定されているのか首を傾げたくなる値決めでした。

以前も、当欄で述べているのですが、このようなLPガス価格の高騰、他エネルギーより割高な価格、そして高騰と下落の乱高下は、日本のような安定供給をめざす消費国にとっては何とも大変なことだ。

本誌でもご紹介した地方懇談会では、LPガスを鼻根にしてくれる消費者委員から、LPガス価格がこれ以上に高値になると消費者が電力や都市ガスに移るようになるので心配である、LPガス業界は何とか頑張ってもらいたいとのご意見でした。

しかし、これに対するLPガス販売事業者の回答は、これ以上の価格の据え置きは業者の死活問題で、とても無理であり、今後更なる値上げをせざるを得ないと悲痛なものでした。

振興センターは、この面には余りお役に立てなく申し訳ないのですが、LPガス販売事業者の皆さんには、是非とも流通合理化や販売方法の構造改善を進め、LPガス消費者の客離れを何としても阻止するどころか、競合エネルギーからお客を頂くぐらいのつもり頑張ってもらいたいと思うところだ。

以上

